

広報モニターからの提言 森 隆政さん(西町)

那須町に移住して早6年半になります。移住当初、町のことは何も知らなかったため、本誌「広報那須」と地元紙を読み始めました。都会に住んでいた頃は自治体の広報誌や地元紙に関心はなく地域に特段の愛着も感じてはいませんでした。日々の暮らしや仕事に追われていたからかもしれません。

ここではたっぷり時間があります。広報誌や地元紙で町の動きや地域主催のイベント等の情報を得て、終了間際の那須検定に挑戦することにしました。町のことを勉強するのに良い動議付けになるからです。受検対策に那須町の日々の動きを伝える新聞の記事を切り抜いてスクラップすることにしました。一年ほど続けていたら、検定が終わっても、いつしかスクラップをしないと新聞を読んだ気がなくなり、今も続いています。広報那須も歴史余話等連載物をスクラップしました。

スクラップがすぐに何かの役に立つわけではありません。ただ、広報那須や地元紙を丁寧に読むようになり、町や地域の動きに関心が強まったのは間違いありません。原稿を書いた人に思いを馳せながら、自分の気に入った記事をスクラップするのは楽しいものです。皆さんもいかがでしょうか。

那須の魅力を再発見! 第13回みんなの集いin那須



2月5日、町文化センターで「目指せ！パワフル那須町」をテーマに第13回みんなの集いin那須が開催され、約230人が参加しました。

黒田原中学校吹奏楽部の演奏で始まった第1部は、さわやかネットワーク那須の会員が「そのときあなたは どうする？ 男女に高めよう防災意識」と題した研究発表を行いました。那須町で起こりうる災害の種類や防災対策、会員が実際に災害図上訓練を体験した様子などが発表されました。

第2部は、高久勝町長が男女共同参画によるまちづくりについて講演後、那須どうぶつ王国総支配人の鈴木和也さん、松川屋那須高原ホテル若女将の廣川てるみさん、遊行茶屋店主の大平夏澄さんが高久町長を囲み「ゲストと語る那須町の魅力」と題したトークセッションを行いました。「個性的な人材」「多様な観光資源」「昔ながらの里山の暮らし」などをキーワードに、男性と女性が一緒にまちづくりをしていくことについて語り合いました。

こんにちは、地域おこし協力隊の友光です。協力隊になり1年が経過しました。当初と比べると人脈も広がり活動の幅が増えていきます。さらに昨年と比べて大きく違う事は体型の変化です。食品をいただく機会が多く肥えてしまったり、私。単純な動機ではありませんが、ロードバイクを始めようかと思っています。どなたかアドバイスをお願いします。

当初の活動は「興味を持った活動へ参加してみる」がテーマでした。式典の司会進行やイベントの実行委員会参加、地域団体への参加、地域づくりのワークショップへの参加等。色々体験させていた



アート展の準備をする友光さん

地域おこし協力隊の
活動レポート
友光 沙季
Vol. 15

だきました。現在は二つの活動を中心に行っています。一つ目は那須湯本のにぎわい作りです。現在は栃木県内で行われているワカモノ中心の街作りを参考にし、地域で継続できるような仕組み作りを模索中です。今後は「外からのにぎわい作りを展開し県外・県内のワカモノを募り、交流人口の増加に繋がるようにしていきたい」と思います。二つ目は9年目を迎える「つながらるひろがるアート展」の活動です。アート展は那須地域在住のハンディキャップを持つ作家達が描く絵画作品を通し、芸術の素晴らしさを広める事を目的としてスタートしました。毎年11月頃に町内のレジャー施設やホテル、公共施設を中心に展示しています。来年度は近隣市町村の連携、グッズ作成、イベント出展、作家達とのワークショップ開催も予定。最近では大田原市地域おこし協力隊との活動も進行中で、展示箇所の増設や町と大田原市を結ぶ「アートの導線作り」に力を入れています。町内での活動は小学校へのカレンダー配布、秋以降の作品展示、音楽イベント、那須どうぶつ王国でのワークショップ、福祉イベントへの参加等を行っています。今後ますます活動の幅を広げる「つなひろ」にぜひご期待ください。